



(目次)

・図書館との輪・話・和	P 1
・「私たちの図書館宣言」解説	P 2
・静岡図書館友の会・今後の事業	P 3
・第 15 回静岡県図書館交流会報告	P 4
・コラム：指示を待つ学生	P 5
・図書館からこんにちは 市内図書館ニュース	P 6
・会員リレーエッセイ ほっとコーナー	P 7
・図書館界ニュース	P 8

図書館との輪・話・和

「提言書」を提出しました

静岡図書館友の会 副代表 高橋醇子

どのような夏をお過ごしでしょうか。

3. 11以来、私たちは心の痛む日々の中で、多くの事を考えさせられています。

ある被災地の図書館が、ライフラインの断たれた大変な状況の中、早い時点で、現地ならではの情報発信やオアシスとしての役割を果たす工夫と努力で開館し、利用者が増えているというニュースに触れました。未曾有の悲しみの中でも、市民にとって課題解決のための公立図書館が身近にあることの大切さを改めて教えられました。

当会は、図書館の良きパートナーを目指し、まだ発会3年目ですが、図書館とは対等な関係を保ち、施策の提言も出来る会でありたいと願って活動してきました。今年もコラボで3回目の「図書館フェスティバル」を開催し、また昨年の「国民読書年」イベントの継続として共同企画で、「静岡の100冊 私の1冊」を募集中です。どちらにもぜひご参加ください♪さらに、「しずとも基金」による図書館が希望する図書への寄贈も行っています。

さて、当市に於いては、6年間に亘り図書館協議会で真摯に協議を重ねてきた「静岡市立図書館の管理運営について」の報告書が、8月中に提出される大切な時を迎えています。私たちは、関係者への資料・情報提供、勉強会、協議会傍聴などの協力を地道に重ねてきました。そこでこの度の報告書が提出される前に、ご苦労された歴代の協議会委員、踏ん張っていらした職員の方たちの後方支援を願って、6月に市長をはじめ関係部局長宛に、右記のような静岡市にふさわしい図書館像の骨子をまとめた「静岡市立図書館の運営についての提言書」を提出しました。

- 1 教育委員会の責任で設置した、直営による図書館。
- 2 「静岡市立図書館の使命、目的とサービス方針」で謳った方針に則った図書館。
- 3 正確で公平な情報公開がなされている図書館。
- 4 全館が一つのネットワークとして、有効に機能する図書館。
- 5 市民の代表である図書館協議会や利用者の声が届く図書館。
(別紙参照)

同時期に、指定管理者制度導入の候補に挙がったあさはた図書館・市民の会、美和図書館友の会からも「直営」を願う要望書が提出されました。

「図書館づくりはまちづくり」を理念に、財政難、国難の時だからこそ、図書館・図書館協議会・市民各々三者の立場で発信をし、連携を図っていきたく願っています。

守るべき基本の軸をぶらさず、志高い静岡市立図書館サービス発展のためには、必要な財政の確保、職員(正規・非正規)のモチベーション維持など、様々な解決すべき問題があります。図書館と市民が輪となり、話し合い、和を持って智恵を出し合い、より良い静岡市の図書館になりますよう、「しずとも」会員約300名の熱いエールを送りたいと思います。

幸いにも田辺信宏市長は、図書館協議会の提言を市民の声と捉え、「公共図書館と学校図書館の充実」の重要性を政策課題に挙げ、また、教委関係者も図書館行政にご理解のある方たちです。現場静岡市立図書館の方向性の舵取りが、未来の子どもたちの魅力的な「図書館づくり・まちづくり」へと連なることを祈り願っています。



「私たちの図書館宣言」が生まれるまで



図書館友の会全国連絡会が組織化されたのは、2004年のことです。現在、多くの全国の友の会団体・個人会員からなり、情報交換、学習会、国会への働きかけなど活発な活動が行われています。利用者の立場から、図書館のあるべき姿を確認しあい、重要性を広く発信することは、命題でもありました。そこで市民の側からの図書館宣言を作るべく、起草委員会を中心に活発な意見交換を経て2009年5月25日の総会で宣言文が決議され、2011年5月の総会で以下の解説文が採択となりました。



「私たちの図書館宣言」解説

一 知る自由と学ぶ権利を保障する図書館

私たちは、図書館のさまざまな資料・情報から、読書の喜びを得ると共に、自ら調べ、考え、判断して課題を解決します。図書館の資料収集を制約したり、検閲したり、収集した資料を書架から撤去、廃棄することは、利用者の判断の幅をせばめます。どんな事実や表現も、制限されることなく図書館に蓄積されていくことで、後世の人々も、知る自由と学ぶ権利を保障されます。

二 いつでも、どこでも、誰でも、身近に無料で利用できる図書館

図書館は、赤ちゃんからお年寄りまで、図書館に足を運べない人も、通常の資料では利用できない人も、外国人も、誰もがいつでも利用できる「本と情報のある広場」です。身近な図書館を「無料」で利用できることが、教育・情報格差をなくし、住みよいまちづくりを応援します。

三 資料・情報が豊富に収集・整理・保存・提供されている図書館

資料・情報は幅広く豊富なほど役に立ちます。図書館には、世界を知る資料から地域や生活の最新情報まで、古今東西の叢智が、体系的に分類・整理・保存されていることが大切です。図書館は、私たち一人一人の読書の喜びのため、課題解決のためなど、さまざまな要望に応じて、より効果的・効率的に資料や情報を提供してくれるところです。

四 司書職制度が確立され、経験を積んだ館長と職員がいる図書館

潤沢な資料と情報があったとしても、必要な人に、必要とする時に手渡すことができなければ意味がありません。社会が複雑化し情報過多であればあるほど、収集・整理・保存・提供には専門知識と経験が必要です。職務倫理を備え、実務経験を積み重ねた職員、館長のいる司書職制度が確立した図書館が公共サービスを支え、質を高めます。

五 利用者のプライバシーを守る図書館

私たちがいつ何を読み、どう利用したかはプライバシーの問題であり、図書館は、業務上知り得た秘密を外部に漏らさないという責務を負います。利用者の個人情報はもちろん、どのような種類の資料・情報もプライバシーを侵害されることなく安心して入手、利用できる図書館が、個人の尊厳に配慮した成熟社会へ導いてくれます。

六 情報公開と民意に基づく図書館協議会が機能する図書館

図書館協議会は、よりよい図書館運営のために、利用者の代表が館長の諮問に応じるとともに、館長に意見を述べる大切な機関です。協議会が効果的に機能するためには、正確で公正な情報公開がなくてはなりません。市民の意思を十分反映できるように、開かれた図書館協議会を設置することが重要です。

七 教育委員会の責任で設置し、直接、管理運営される図書館

「図書館」は、法令上「教育機関」です。生涯学習の拠点である図書館は、さまざまな介入や干渉に左右されてはなりません。首長部局から独立した教育委員会において、公の責任のもと、直接、管理運営することで、中立性と公平性、専門性も継続され、市民の声が届きやすくなります。

2011.5.23 総会採択



静岡図書館友の会・今後の事業



～しずおか発見～ 静岡図書館フェスティバル 2011

日時：2011年10月30日（日）10時～16時
 会場：静岡市立中央図書館
 主催：静岡市立中央図書館・静岡図書館友の会

***** (午前の部) *****

- おはなし会 : 1F おはなしコーナー (手提げバッグ)
- 工作 : 2F 視聴覚ホール
 ～絵本カバーを利用した「かわいい手提げバッグ」を作りませんか～
 当日のスタッフ募集！くわしくは別紙をご参照ください。



***** (午後の部) *****

- 会場：2F 視聴覚ホール
- ブックトーク：野元洋平氏【中央図書館主任主事】
 静岡市立中央図書館の職員として、フェスティバルに参加
 - 講演 : 織田元泰氏【元常葉学園大学教授】
 [内容] : 「静岡の災害の歴史」

***** (展 示) *****

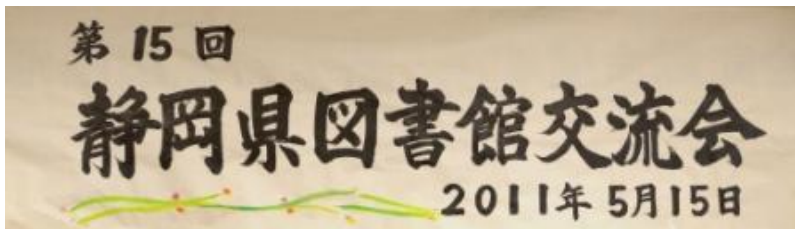
- 静岡の100冊 私の1冊：1F
 2012年3月まで継続して募集します！ 昨年度当会が企画した事業ですが、今年のフェスティバルのテーマ「しずおか発見」にちなみ図書館との共同企画で、内容を一新した用紙を同封します。まだ出されていない方はぜひ記入し、最寄りの市立図書館にお持ち下さい。展示はこの中間発表とします。中央図書館、南部図書館、清水中央図書館を巡回展示します。
- 十返舎一九の板本：2F 展示コーナー（展示協力・駿府十返舎一九研究会）
 静岡市立中央図書館所蔵の『木村文庫』を公開します
 [展示期間]10月30日～11月11日（午前）

2012年度総会・記念講演会

日時：2012年1月22日（日）午後
 会場：静岡県総合研修所もくせい会館 1階富士ホール
 〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1 Tel.054-245-1595
 (総会) 静岡図書館友の会 2012年度総会
 (記念講演会) 「カチカチ山に死の灰が降る日」
 ～昔話というメディアで今をとらえる～



講師：アーサー・ビナード氏
 【講師プロフィール】 ウィキペディアより
 アーサー・ビナード (Arthur Binard、1967年7月2日 -) は、アメリカ合衆国ミシガン州生まれの詩人・俳人、随筆家、翻訳家。妻は詩人の木坂涼。
 2007年、絵本『ここが家だ ベンシャーンの第五福竜丸』（集英社）で日本絵本賞受賞。



2011年5月15日（日）、藤枝市立駅南図書館において第15回静岡県図書館交流会が開催された。全国各地からの方も含め約100名という多数が参加者し、盛況であった。

午前中は、県内各地の報告の後、筑波大学大学院准教授の吉田右子氏による「コミュニティを元気にするデンマークの公共図書館」と題した講演が行われた。飾らない軽快なテンポで北欧の図書館事情をお話して頂いた。

午後は、①「集まれ！図書館サポーター」、②「魅せる！図書館のデザイン～利用案内編～」の二つの分科会が実施され、①「集まれ！図書館サポーター」において山田副代表より「静岡図書館友の会からの報告」を行った。分科会終了後、全員が集まり交流を深める時間を経て、成功裏のうちに閉会となった。

以下、北村正平藤枝市長ブログ（2011.5.30）より

藤枝市長の部屋

元気なまち藤枝づくり 北村正平のちよつと一言

図書館でつながる！図書館交流会が開かれました

2011年05月30日 | ちよつと一言



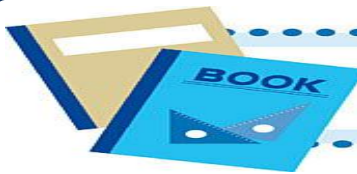
今年で15回目を迎えた、「静岡県図書館交流会」が本市の駅南図書館で開かれました。交流会は、毎年静岡市で開催されていましたが、開館して3年目の「駅南図書館」と「藤枝・図書館友の会」の活動が注目されていることも、今回本市で開催することになった理由とも伺い、大変嬉しく思います。

日頃、図書館を利用する人、図書館で活動する人、図書館ではたらく人たちが集まり、より良い図書館の発展を願って話し合ったり、情報交換する場となっているこの交流会は、全国でも例を見ず、高い評価を受けています。それを裏付けるように、県内をはじめ、県外からも東京、愛知、新潟、茨城、福島、山口からの参加があり、この活動がいかに注目されているか伺われます。

よく「図書館は、自治体の文化のバロメーター」と言われます。また、生涯学習の拠点でもある図書館は、誰にでも開かれた、なくてはならない知的インフラだとも思っています。本市も、今回会場となった駅南図書館を新たに開館し、現在、2館1分館の体制で、多くの市民の皆さんにご利用いただいております。

交流会は、報告会、講演会、分科会、交流の時間など、盛りだくさんで内容の濃い会になりました。参加された方々には、多くのことを学ばれ、またヒントを得られたのではないかと思います。この成果を、今後の活動に活かされることを期待しています。

この交流会の開催にあたりご尽力いただきました、静岡県図書館交流会実行委員会をはじめ、関係の皆様へ感謝申し上げます。



指示を待つ学生

山本宣親（元図書館職員・元大学非常勤講師）
（富士市在住会員）

「先生、1行何字で書いたらいいですか？」「1頁何行にしたらいいですか？」

司書課程で担当した授業で、公立図書館を訪問して小レポートを提出することを学生に求めた。テーマは「私の利用している図書館—そのよいところと改善点—」分量はA4判2枚以内。それが上述の質問となったのだ。

わが国の学校教育の特徴は、詰め込みと暗記重視。自分で考えるという習慣を身に着けることなく成長した若者たちは、大学生になっても、指示がないと動きがとれないようである。学生すべてとは言わないが、考える力が衰退していると感じ、困ったことだと思う。

この傾向は「上意下達」の風潮を助長する。行政に働く職員を見ていると特にそのように思える。

「言われたことだけをやり、言われもしないことはやらない」仕事に熱意がなく消極的な職員が多くなる。地域に貢献し、市民の幸せのために働くという自治体職員としての任務を見失い、自己の保身や立身出世を優先させる。それは人事管理システムが「仕事で勝負」となっていないことに根本原因があるからだと思ふ。

しかし、同時に不正や不合理、不満があってもあきらめ、見て見ぬ振りをして自己主張をしない市民にも責任があると思う。

私が学生に小レポートを課した真の目的は、司書課程の学生に「図書館を図書館として利用してほしい」と願うからである。

「図書館はヒトから人間になるところ」と私は考えている。食物を摂取すればヒトは成長す

るが、人間に成長するには本を中心とした情報を得て考え、内面的な成長も併せて図ることが必要であろう。

基本的人権を保障する社会教育施設としての図書館が、「地域の文化と民主主義の発展」にどれだけ貢献するか、まさに問われる時代を迎えた。

図書館を育てるのは利用者。職員とのコミュニケーションを適切に交わし、予約やレファレンスを求めることが専門職としての司書を配置する何よりの力となろう。また、現職員の能力もそれによって高まること必定。

図書館利用の数は質を変え、予算と人員を配置させる確実な保証となる。首長や議員だけに頼るのではなく、市民としての図書館サポーターの数を増やし、活動を広げること。それが「依存から自立への脱皮」のエネルギーとなって、地域を発展させ日本を変え、地球を救う力となる。

そして、暗記力重視から考える若者を育てる学校教育転換ともなるに違いない。

まさに図書館は地域に眠る「宝の原石」、まちな宝物である。と、私は考えている。



図書館から こんにちは



レファレンス・インタビュー

静岡市立中央図書館主査 田中 邦子

初めて図書館で働く新人たちへのレファレンス研修で、私たちは「インタビュー」が大事だという話を必ずします。図書館の仕事の中でも、レファレンスはまだまだ多くの人には知られていません。皆さん「こんなこと聞いていいのかな…？」と不安そうな面持ちで質問されます。大抵の方は「地図はありますか？」などかなり大きなカテゴリで。何の地図をお探しですか、時代は？場所は？地形図をそれとも住宅地図を？どんな情報を地図に求めているの？この「インタビュー＝利用者が本当に探しているものが何かを聞き出すこと」が上手くできないと、見当違いの資料をご案内することになってしまいます。上手なインタビューができるようになるためには、聞き上手でなくては。あれこれ不用意に聞きすぎて利用者を不快にさせてしまうようなら失格。資料を探すために必要な事項が何かを判断して的確に聞き出す、という作業は実はなかなか難しいのです。レファレン

スカウンターに入るときは、新人の頃、受けた質問をそのまま先輩に伝えて「で、その何を知りたいかをちゃんと聞いたの？言われたことだけで探そうとしても駄目」と指導されたことを忘れないようにしています。

ちなみに現在図書館のホームページからメールでレファレンスを受け付けていますが、質問欄に「〇〇について」とだけ書かれていると途方にくれてしまいます。〇〇のどんなことを知りたいのか、窓口かせめて電話でならすぐに聞けることを、メールで延々とやりとりすることになってしまいます。返信をいただいてから調査が始まるのでかなり時間がかかることも。メールでのご質問は、図書館の休館中や夜間にもできて確かに便利かもしれませんが、その場合はご存知の情報や探している内容をとにかく詳細に記入していただくと助かります。又はお急ぎの方はメールよりぜひ窓口かお電話で。お越しをお待ちしています！



(東北地方)

市内図書館ニュース

静岡市立中央図書館

❖ 東日本大震災被災者に対する図書館の支援について

この度の東日本大震災に際し、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。

今回の被災や地震及び大津波による福島第一原発の事故で、周辺自治体の住民に対しても避難指示や屋内退避指示が出されるなど多くの住民が大変不自由な生活を余儀なくされています。

全国の自治体は被災地に対して様々な支援を行っており、静岡市でも、「職員派遣」「義援金募集」「被災者の受入れ」「義援物資」などの支援を行っています。

こうした状況を踏まえ、図書館では、今回の震災に伴う被災者に対する支援活動として住み慣れた土地を離れ、本市の家族・親類・知人宅等に概

ね1ヶ月以上、滞在する被災者に対して図書館カードを発行し、様々な情報や読書環境を提供し、本市における生活の支援を行っています。

また、震災直後は、原発・地震に関する図書の展示を行ったほか、被災地で不安を抱えている人々に安らぎや楽しみを提供し、被災者の心を潤すために、被災地へ本等を郵送・持参する団体に対して図書館で不用となった（リサイクル）本の配布を行っています。

なお、被災者への図書館カードの発行や被災地への本等の発送支援につきましては静岡市立中央図書館（054-247-6711）へお尋ねください。



会員リレーエッセイ

おきらい

三陸町越喜来

「静岡自然を学ぶ会」代表 池上理恵

岩手県大船渡市三陸町越喜来は、息子が5年前まで、学生として3年間暮らした場所である。3月11日に、かつて息子が住んでいたアパートも含んだ一帯が津波に呑まれてしまったと聞き、胸がつぶれる思いだった。

6月に、岩手に行く用事があり、やはり越喜来を見てこようと思った。水沢江刺駅から、レンタカーで大船渡市に向かい、そこから海岸部に入った。北里大学海洋生命科学部キャンパス内で、元・大学嘱託職員の久子さんと待ち合わせをする。久子さんは多くの学生たちに慕われた方で、今回も、土地に不案内な母を案じて息子が彼女につなげてくれたのだ。久子さんの家は、50年前のチリ地震津波で被災し、そのときの教訓から高台に建てられて被害はなかったようだ。

息子が住んでいたアパートの跡をさがそうと海の前前の瓦礫原に行く。そこにポツと一軒、小さなプレハブ小屋が建っており、プロパンガス屋の社長さんが仮営業所を営んでいた。久子さんが事

情を説明すると「遠くからよく来てくれたねえ」と言って、すぐ脇にある場所のコンクリートの土台を示し、ここが「息子さんが住んでいた『ララ三陸』があったところだよ。ここにもよくプロパンを配達したよ」と話された。社長さんは「家も、店も失くした。残ったのは仕事用の小型トラックと妻だけ。前は自分に自信が無かったけれど、地震が来て、自信ができた」と豪快に笑った。「あんなこと言って、一人になると泣いているだから」と久子さんが笑顔で応じる。社長さんは親類のお寺に身を寄せているという。

久子さんは、震災後、学生が500人いた三陸キャンパスが5年先まで閉鎖され、学生と共にあったこの地域の活力が消えてしまうと心配されていた。「5年間もつだらうか」と。

慰問、議員の視察は、大規模な被災地に集中し、ここには訪れていないという。

「ここに来て、住民の声に耳を傾けてほしい」久子さんのこの言葉を為政者に届けたい。



～しずとも「ほつとコーナー」～



心のかけはし

村松 鈴恵 (フリーランスライター)

「子供達の本離れにお母様達の心配は募るばかりです。本に関連づけての講演をしてほしい」。オーストラリアのケアンズで、小学校のアフタースクール（日本語教室）の教師をしている友人から講演依頼が入った。私でお役に立つのならばとケアンズに出向いた。

現地在住の日本人のお母様達に『本と子育て』という演題でお話をさせていただいた。海外で暮らしていても、わが子には、日本の歴史や文化、そして日本語を習得しつづけ将来につなげてほしいと願うお母様達。その真摯なおもいが講演会場にいっぱい溢れていた。

“私にできることは何かあるかしら…”。講演を機に、私はケアンズの市立図書館に日本の児童書や絵本を贈ることを決めた。以来、毎月一冊のスタンスで贈り続けてきている。

5年程が経つ。今では現地の子供達、お母様達が本を心待ちにしてくれている。私は現地に行くとき必ず図書館に出向く。そこで贈った本を手にとってみる。本に付いた皺と手垢の何と美しいことだろうと感動！本を読まれた人達の、読書への直向きさがそこに輝いている。

今年6月。ノーベル文学賞作家マリオ・バルガスリョサ氏が来日し各地で講演をされた。氏は語る——「文学は欠点の多い世界を変えていく為の原動力となる。ことばのおかげで私達はわかり合うことができ、過去の人達がどう考え、どんな夢があったかを知ることができる。時間や空間を越えた連帯感を生み、肌の色や言葉、宗教などの壁を超越できる視点をもたらす」。私は、寄贈本に託す私の祈りと氏の言葉を重ねた

図書館界ニュース： 図書館をめぐる全国・世界の動き

◆ 第51回社会教育研究全国集会（静岡集会）

<http://japse.style.coocan.jp/syukai/>

集会テーマ：ともに生きる社会をめざし、学習の自由と権利の実現を～東日本大震災を受けとめて

～

- ・ 期日：2011年8月27日（土）～29日（月）
- ・ 会場：静岡県男女共同参画センター あざれあ
- ・ 第14分科会（テーマ）自治体改革と社会教育制度

◆ 平成23年度（第97回）全国図書館大会多摩大会

<http://www.jla.or.jp/taikai.htm>

- ・ 期日：2011年10月13日（木）～14日（金）
- ・ 開催地：東京都（多摩地区） 主会場：調布市グリーンホール
- ・ テーマ：「広げよう、図書館のある生活一つなげよう知の拠点」
- ・ 第18分科会のテーマ：「図書館を支える市民の力ー図書館協議会・友の会・市民運動ー」
この「市民の力」を取り上げたテーマの分科会は、日図協の100年近くの歴史からは初めての画期的なものだそうである。

* 当会では、上記2つの集会・大会において各部会での事例発表の依頼を受け、発表する。約3年にわたる活動が全国の「友の会」「図書館」の方々に少しでも参考になれば素晴らしいことである。

◆ 平成23年度第19回 静岡県図書館大会

伝えよう 図書館の力 広げよう 新たな可能性

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/index.html>

日時：平成23年10月24日（月）9：50～15：45

会場：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

主催：静岡県教育委員会・静岡県図書館協会・静岡県読書推進協議会

◆ 図書館友の会全国連絡会（図友連）、総務省・文科省あてに要望書を提出 平成23年5月24日

- ・ 総務省あて：「公立図書館の振興を求める要望書」
- ・ 文科省あて：「公立図書館、学校図書館の振興を求める要望書」

図書館友の会全国連絡会は、平成23年5月24日表記要望書を総務省・文科省あて提出した。賛同者は全国71団体、個人会員25名にのぼった。

総務省あて要望書中、要望2「指定管理者制度、業務委託等民営化に関する調査の実施」について、総務省は「指定管理者制度の導入等については、施設の性格や地域の実情等を踏まえ、地方公共団体が判断をしているものと承知しております。」と回答している。

静岡図書館友の会会報 No.6 2011.8

静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

連絡先：（携帯）080-6910-9434（月一金／10-15時）

Eメールアドレス：sizutomo2008@yahoo.co.jp

ホームページアドレス：<http://www4.tokai.or.jp/sizu.tomo/>

（会員数）290人：2011年8月現在

（表紙イラストデザイン：J.T）

編集後記

- ・ 東日本大震災・原発事故はこの静岡にも無関係ではありませんでした。浜岡原発の資料を読み、図書館の存在意義をあらためて感じています。（H）
- ・ 今夏、ウィンブルドンでのクルム伊達公子の品のある凜としたプレーとなでしこジャパンの諦めないフェアプレーから、勇気と感動と慈雨をもらいました。（T）
- ・ 『までの力』読みました。飯館流スローライフ。「ここには2011年3月11日午後2時46分以前の美しい飯館村の姿があります。」の見出しに、深い悲しみと怒りを見ます。（Y）